

接客敬語としての「～になります。」の用例と WWWにおける使用分布

The examples and use distribution of "narimasu" on the Internet

秋 山 智 美
Satomi Akiyama

1. はじめに

動詞「なる」のうち、商業敬語として揶揄される「～になります。」について先行研究と併せて、WWW検索からその使用例をみて、その傾向を整理した。なお、WWWを用いる理由としては、WWWの検索ヒット数から、その語の使用傾向や使用分布を概観できると考えたからである。

2. 先行研究

北原保雄編（2004）『問題な日本語 どこがおかしい？何がおかしい？』大修館書店（pp.30－33）において動詞「なる」についての記述が詳しい。「こちら～になります。」などの使い方について、「なる」の持つ二つの意味から考察をしている。

ファミリーレストランなどで「こちら〇〇になります。」といった言い方が聞かれる。この表現は、文法的には正しいが、話し手の伝えたいことと聞き手の期待することとが食い違い、不自然に感じる表現である。

「なる」という動詞は、『明鏡国語辞典』では、「人為的ではなく、自然ななりゆきで推移変化して別の状態が現れる意」と説明している。「こちら〇〇になります」が客側から不自然に感じられるのは、この〈非人為的〉と〈新たな状況の出現〉の二つが場面にそぐわないからである。

「なる」の表す〈新しい状況の出現〉には、実は二つの場合がある。

①ものの自体が変化することを表す「なる」。

子どもの歳を聞かれて、子どもの年齢の変化を示す。

a-1「この子は（来月）三歳になります。」

a-2「先月で三歳になりました。」

a-1（現在）二歳→（来月）三歳

a-2（先々月）二歳→（先月）三歳→（現在）三歳